

# 道徳科学習指導案

## 主題名「相手の立場を理解する」〔学指要領：B 相互理解，寛容〕

第5学年

### I 主題設定の理由

#### 1 価値観

本主題は、小学校学習指導要領「特別の教科 道徳編」の内容 B相互理解，寛容「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心もち広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」に基づくものである。自分の考えや意見を相手に伝えるとともに自分と異なった意見や立場を広い心で受け止めることは、自らを高め、今後、幅広く深い人間関係の構築していくためにも欠かせないことである。

ただ、私たちは、自らの立場を守ろうとするあまりに、物事を自分の一面的な見方で捉えて相手の失敗や過ちを非難したり、自分と異なる考えや立場を受け入れられなかったりしてしまう弱さをもっている。

特に高学年の児童は、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをこれまで以上に意識するようになる。

そこで、自分自身を謙虚に見つめ、自分自身も不完全な存在であり至らないところがあることを自覚することが欠かせない。また、同時に、自分と異なる意見や立場の相手がいることを理解し、広い心で受け止め、尊重しようとする態度を養うことが大切になってくる。

また、今後、この内容項目は第6学年「ぼくだって」の学習へと発展していく。

#### 2 児童観

本学級の多くの児童は、これまでの学習や日常生活の様子から、相手の気持ちや立場を理解し、自分と異なる意見や立場を尊重することの大切さを理解している。しかし、自らが問題の当事者となると寛容な心をもてず、意見の異なりや立場の違う相手に対して、自分の一面的な見方を押し付けてしまったり、責めてしまったりすることがある。

これらのことから、今後、このような児童が、学校生活や行事の中のリーダーとなり、お互いのものの見方や考え方、感じ方の違いをよさとして捉え、生活を送っていくためには、自分と異なる意見や立場を相手の立場になって理解し、謙虚な心と広い心で受け止め、相手を尊重する態度を育てたい。

#### 3 教材観 教材名「すれちがい」（出典：日本文教出版「生きる力5」）

ピアノ教室に行くことを互いに約束したと思っていた主人公2人が、自分本位な行動をしたことで、すれ違いが起き、関係が悪くなってしまった内容である。

本教材は双方の立場からの主張が記載され、児童が客観的に二人の状況や心情を捉えやすく、自身の立場を登場人物に置き換えて考えやすい。2人の言動と心情の変化を関連させて捉え、「よし子とえり子はどうすればよかったのだろうか」を2人の立場と自身を照らし合わせて考え、対話を進める中で、相手の立場になって考えることや、謙虚な心をもつことのよさに気づくことができる。

本時では、導入において、相手と心がすれ違った経験をアンケートの結果とともに問い、本時の内容項目に対する課題意識をもつ、その後、展開では、登場人物の立場で自身の考えを伝え合う。そして、終末で、もう一度自分自身の立場に戻り、内容項目について、これからどんな生き方をしていきたいか考えることができる。

### II 本時の学習

- ねらい よし子とえり子の立場で考えを伝え合う活動を通して、相手の立場になって考えることや謙虚な心をもつことのよさに気づき、自分だけでなく相手のことを尊重して生活していこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

主な学習活動 <b>【主な発問（◎中心発問 ◇補助発問）</b> 予想される児童の意識「S」	○指導上の留意点
<p><b>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。（5分）</b>                      S：約束をしたのに、休み時間友達が来なくて責めてしまったことがあったな。                      S：友達とすれちがったままはいやだな。</p> <p><b>&lt;めあて&gt;</b>                      どうすれば友達とすれ違わずに、過ごすことができるだろうか。</p>	<p>○心がすれ違った経験を想起することができるよう、アンケートや事例を提示する。  <b>【★提示・配布】</b></p> <p>○ねらいとする指導内容の意識を高められるように、相手と心がすれちがったままでよいか問いかける。</p>
<p><b>2 教科書の教材文の範読を聞く。（3分）</b>  <b>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。（22分）【★共有】</b></p> <p>◎よし子とえり子が、今回のようなすれちがいをおこさないようにするためには、どのような心構えが必要でしょうか。</p> <p>S：相手に怒る前に一度立ち止まって考えると良いと思うな。                      S：自分中心じゃなく相手の立場を考えられると良いのではないかな。                      S：勘違いや仕方がない事情は誰にでもあるから、自分のことばかりにならず冷静になって相手と向き合うことが大切だと思うな。</p> <p>◇本当に怒らずに対応することが出来ますか。</p> <p>S：できないかもしれない。でもすれちがって友達とけんかはしたくないから、すれちがわない努力はしたいな。</p> <p><b>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。（8分）</b>                      S：ちょっとした誤解や勘違い、思い違いは自分もよくあることだから、相手を責めずに広い心で受け止められるとよいと思うな。</p>	<p>○2人の関係の変化に気付けるように、2人の言動に注目して聞くよう促す。</p> <p>○わずかな行き違いで関係の修復が困難になってしまうことに着目できるように、構造化された板書で、2人の関係の変化を問いかける。</p> <p>○自分なりの解決策とそれを支える各自の心のありようについてグループごとに考えを伝え合うよう促す。</p> <p>○2人の立場を比較して考えられるよう、考えを伝え合う際、「よし子の立場」「えり子の立場」といった視点を示す。</p> <p>○互いに理解し、認め合い、広い心で支え合える関係を構築する難しさに気付けるよう、補助発問で行動の可否を問いかける。</p> <p>○自分の考えを多面的・多角的にできるよう、補助発問に対して「できる」「できない」の考えの理由を問いかける。</p>
<p><b>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。（7分）【★保存・提出】</b></p> <p><b>&lt;振り返り&gt;</b>                      S：今までケンカになったときは自分中心で考えていたけど、相手の立場になって自分だったらと考えて過ごすよいな、これからは相手の思いや考えを大事にしたいな。</p>	<p>○本時の学習を振り返り、よりよい自己の考えや生き方への思いや願いを明確にするために、これからしていきたいことを記述するよう促す。</p>

<p><b>◆評価の視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの記述や発言から、「相手の立場になって考えることや謙虚な心を持つことの意義を多面的・多角的に考えている」姿を見取る。</li> <li>・タブレットの記述や発言から、「すれちがいを起こさないために、相手の立場を尊重し受け入れていくことについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。</li> </ul>
---